

緑土会の活性化へ向けて 「関東緑土会だより NO16」

20190731 発行

1、誌上クラス会 「OB会だより」(別紙資料)

今後「OB会だより」と称して2018年4月より「関東緑土会」によりOB訪問先などを選定・企画し掲載しています。

第16回目として「関東緑土会だよりNO16」については

- 1、印象的な業務とその後の活動(山登りの記録) 重田哲朗さん(昭和39年卒業)
日本工営OB(別紙資料)
- 2、五洋建設株式会社 緑土会OBだより 訪問日6月3日(別紙資料)
- 3、校友会 千葉支部総会 緑土会OBだより 開催日7月6日(別紙資料)
- 4、五洋建設株式会社 緑土会OB訪問 訪問日6月4日(別紙まとめ資料)
- 5、大成建設株式会社・トップライズ株式会社 緑土会OB訪問
懇親日7月4日(別紙まとめ資料)
- 6、世紀東急工業株式会社 緑土会OB訪問 訪問日7月8日(別紙まとめ資料)
- 7、青木あすなろ建設株式会社 緑土会OB訪問 訪問日7月8日(別紙まとめ資料)
- 8、トップライズ株式会社 緑土会OB訪問 訪問日7月19日(別紙まとめ資料)

日本工営OBで学生時代にワンダーフォーゲル活動で、船越顧問とクラブ活動をご一緒にされていた重田哲朗さん(1964年 昭和39年卒業)を7月6日に訪問しました。

今回は「緑土会OB会だより」の原稿を特別に寄稿して頂きましたので紹介します。

テーマは「印象的な業務とその後の活動(山登りの記録)」で日本工営勤務時代インドネシアのプロジェクトも合わせて紹介して頂きました。

6月3日に五洋建設の松尾史朗さん(1982年 昭和57年卒業)を訪問しましたが、今回「五洋建設株式会社 職場支部「五洋柏会」だより」の原稿を谷口修さん(1998年 平成10年卒業)より頂きましたので紹介します。現在32名の緑土会会員が在籍しています。

又校友会千葉支部総会が7月6日に開かれましたが、幹事さんに、この会に参加された緑土会会員の皆さんの集合写真を頂きました。

今回は写真のみの紹介ですが「大成建設株式会社」「世紀東急工業株式会社」「青木あすなろ建設株式会社」「トップライズ株式会社」の4社を7月に訪問しましたので、その時に撮影した写真を紹介します。

原稿の締め切りの関係で次回号にて「株式会社フジタ」の緑土会OB訪問を紹介します。

会員の皆さんは、職場内、地域、学年ごとのクラス会、研究室のOB会、クラブ活動のOB会など、各種の集まりが開かれて、出席されていると思います。

この集まりは各種組織内での会合のため横の繋がりが弱く広がりが狭いと感じています。

またOB全員の消息が分かっている訳ではなく、仲間の消息を知りたい等の希望もあり、何らかのツールが欲しいとの話も聞こえております。

「OB会だより」は緑土会卒業生・在校生が自由に活用して頂ければと思いますが、「関東緑土会」として積極的に「待ちの姿勢ではなく」OBを訪問し記事を収集・募集・掲載するようになっていきたいと思います。

2、「関東緑土会だより」

(1) 関東緑土会だより

- ・「関東緑土会」の活動を紹介したり、会合の報告をしたり、「OB会だより」の経過・企画説明など、この「関東緑土会だより」にて紹介していきたいと思っています。
- ・誌上クラス会 「OB会だより」の訪問時には、以下のことを緑土会OBの皆さんにお願いしています。

- ① 緑土会活動の活性化に向けて「緑土会ホームページ」の紹介とリサーチ依頼
- ② 緑土会総会・懇親会に出席の依頼（今年は11月10日土曜日開催予定）
- ③ 交友会のメール登録のお願い（「都市」やホームページを参考に登録促進）
- ④ 「りょくど」や「関東緑土会だより」への原稿の投稿依頼
- ⑤ 緑土会OBの紹介依頼
- ⑥ その他

(2) 編集後記

今月号で紹介する予定でした「株式会社フジタ」は原稿の関係で次回号にて緑土会OB訪問を紹介する予定です。

来月号以降は6月18日に開催された「ワンダーフォーゲル部OB会」の紹介と今月号は写真だけでしたが「トップライズ株式会社」の故事掲載を予定しております。

また新規紹介ですが「若築建設株式会社」「総合技術コンサルタント株式会社」については次号以降順次掲載予定しております。

今後の企画として「緑土会女子OB会」として意見交換会を開催する構想もあります。ご意見いただければ幸いです。

新年度からは、会社訪問を発展させて「現場で活躍をされている緑土会会員の紹介」を今後テーマとして取り上げていきます。緑土会会員の紹介だけでなく、掲載が許される範囲で現場の状況などを誌上にて紹介します。

今後も原稿提供を皆様をお願いしています。よろしくお願ひします。

小林 哲 男（昭和47年卒業）

誌上クラス会 訪問先 一覧

会報「りよくど」 掲載日	訪問日	訪問先				訪問者	
		企業・団体・会合	氏名	卒業年度	備考		
りよくど No.24 (2018/03/31)	2018年3月19日	株式会社 森本組 東京本店	柏原 恵一 石原 正志	S57卒 S58卒		船越 小林	
	2018年3月22日	株式会社 竹中土木 東京本店	安藤 慎一郎 中村 士郎	S57卒 H 3卒		船越 小林	
りよくど No.25 (2018/05/07) 関東緑土会だよりNo.1		ワンダーフォーゲル部 卒部会	船越 靖彦 高崎 智紀	S43卒 現役(1年生)		船越	
	2018年4月18日	ライト工業株式会社 R&Dセンター	横田 弘一 星野 秀太 関 徹也 中山 豊彦	S61卒 H30卒 H 6院卒(機械) S53卒		船越	
	2018年4月20日	大成建設株式会社 横浜支店 土木OB会	佐藤 康夫 石井 克典 渡辺 秀昭 大沼 正彦 小林 哲男 岡田 仁 天田 拓	S37卒 S39卒 S39卒 S40卒 S47卒 S48卒 H03卒		小林	
りよくど No.26 (2018/06/05) 関東緑土会だよりNo.2	2018年4月27日	緑土会 大阪訪問 (大豊建設・福田組・鉄 建建設)	松井 秀一 永田 佳敬 大沢 悟	S54卒 S57卒 S58卒(機械)		船越	
	2018年5月17日	東京ソイルリサーチ	田部井 哲夫 伊藤 雅朗 安 浩輝	S53卒 S53卒 H 8卒		船越 小林 中山	
	2018年5月22日	関東緑土会総会・懇親会	五艘章(S41)、川邊富明(S41)、船越靖彦(S41) 小林哲男(S47)、高橋年秋(S48)、鈴木高志(S49) 中山豊彦(S53)、太田一三(S58)				
	2018年5月9日	青木先輩のご逝去の報に接し		S44卒		小林	
りよくど No.27 (2018/07/06) 関東緑土会だよりNo.3	2018年6月2日	福島支部での近況報告	佐藤安宏支部長 関根康孝事務局長 伴野史典幹事	S37卒 S55卒 H 7卒		船越	
	2018年6月21日	京王建設 株式会社	寺門 聰 南 達也 川崎 津良	S53卒 S62卒 H 4卒		船越 小林 中山	
	2018年6月11日	東電設計 株式会社	栗原 美津雄 藤井 健知 黒瀬 浩公	S53卒 H 3卒 H 3卒		船越 小林 中山	
りよくど No.28 (2018/08/15) 関東緑土会だよりNo.4	2018年6月18日	福島支部 OB会	由井 理 <small>(中間階層・環境安全事業(株))</small> 佐藤 幸一 <small>((株)千代田コンサルタンツ)</small> 関根 康孝 <small>((株)オリエンタルコンサルタンツ)</small>	S51卒 S54卒 S55卒		船越 小林	
	平成30年6月21日	日本のトンネル技術の国 際化と私の活動	太田 義和	S42卒			
	2018年7月7日	千葉支部総会	五艘章(S41)、船越靖彦(S41)、宮壽義昭(S45)、安田茂 (S45)、中村進(S48)、村田慎吾(S51)、松浦弦三郎 (S51)、菅澤浩之(S54)、滝波善裕(S55)、高橋貞夫 (S57)、岡田孝(S59)、北岡聡(S62院)、高柳昌司(H2)、中 町源徳(H7)、久保田融(H12)、保田裕之(H12)				船越
	2018年7月23日	川井しげおを励ます会	川井しげお	S46卒		小林 太田(S56卒)	
りよくど No.29 (2018/09/06) 関東緑土会だよりNo.5	2018年7月2日	株式会社 篠塚研究所	静間俊郎	H 7卒		船越 小林	
	2018年7月28日	飛鳥建設株式会社	袴田 歩 渡邊 康之 川里 麻莉子 早川 英一	S55卒 H 3卒 H22卒 S61卒(機械)		船越 小林 中山	
	2018年8月8日	関東緑土会 鈴木副会長の 送別会	鈴木高志	S49卒		小林	
		「ドボコン」コンテスト作品募集				(社)建設コンサルタンツ協会関東支部 50周年記念イベント	

会報「りよくど」 掲載日	訪問日	訪問先				訪問者
		企業・団体・会合	氏名	卒業年度	備考	
りよくど No.30 (2018/10/04) 関東緑土会だよりNo.6	2018年8月23日	セントラルコンサルタント(株)	澤田 純一 高橋芳之 大熊正人 大野木隆介 若林晋平	S58卒 H08卒 H20卒 H27卒 H27卒		船越 小林 中山
	2018年8月20日	エイト日本技術開発株式会社	磯山 龍二 佐々木 秀典	S53院卒 H08卒		船越 小林 中山
	2018年9月13日	奈良建設(株)	佐藤 貢一 秋原 邦郎 島倉 徹也 岩崎 和隆	S60卒 H02卒 H06卒 H11卒		船越 小林
	2018年9月5日	東急建設 鈴木関東緑土会副会長送別会	鈴木高志	S49卒		小林
		「ドボコン」コンテスト作品募集		(社)建設コンサルタンツ協会関東支部 50周年記念イベント		
りよくど No.31 (2018/11/07) 関東緑土会だよりNo.7	2018年9月6日	仙台訪問(緑土会) ・青木あすなる建設 ・陽光建設 ・前田建設	鈴木一功 峯岸勇一	S63卒 S51卒		船越 小林
	2018年10月15日	ワンダーフォーゲル部	小池精一	S54卒		
		日本遺産・谷石文化を探るツアー開催(案内)				
りよくど No.32 (2018/12/03) 関東緑土会だよりNo.8		特別講義 第8章「グローバル社会における経営」		経営システム工学科		
	(2018/9/13) 2018年10月22日	三信建設(株)	島野 嵐 大沢 一実 山崎 淳一 原田 良信	H09卒 S52卒 S57卒 H11卒		船越 中山
	2018年11月8日	(株)カナコン	大木 唯嘉 花上 幸弘	S59卒 H07卒		船越 中山
	2018年11月7日	「日本遺産・大谷石文化」を探るバスツアー開催		校友会主催		小林
りよくど No.33 (2019/1/23) 関東緑土会だよりNo.9	(2018/10/1) 2018年11月15日	川田工業(株)	街道 浩	S60年卒		(船越 中山) 小林・中山
		オーストラリア紀行記	小林			
	2018年12月20日	幹事忘年会 (小林会長 高橋服会長 船越顧問 中山幹事)				
りよくど No.34 (2019/1/23) 関東緑土会だよりNo.10	2018年12月13日	大日本コンサルタント(株)	齋藤哲郎 新井聖司	S58年卒 (S60年院卒) H16年環境情報学科卒		船越 中山
	2019年1月11日	鈴木副会長 近況報告				
りよくど No.35 (2019/3/8) 関東緑土会だよりNo.11	2019年1月30日	(株)横河ブリッジ	山下祐次 山浦昭洋 永田 孝 渡邊秀貴 小澤明弘	S58年卒 H 3年卒 H 4年卒(H 6年院卒) H 8年卒(H10年院卒) H26年卒		船越 中山
	2019年2月2日	茨城県 武工会 平成31年総会に出席させて戴いて				船越
りよくど No.36 (2019/4/) 関東緑土会だよりNo.12	2019年2月18日	ケミカルグラウト(株)	菊地孝明 唱 伸吾 渡邊陽介 岩崎結子	S53年卒 H10年卒 H17年卒 H19年卒		船越 中山
	2019年2月28日	日本ファブテック(株)	西本哲也	S56年卒(S58年院卒)		船越 中山
	寄稿文	「現場に育てられた 土木人生」 (株)フジタ		新藤敏則	S55年卒	

印象的な業務とその後の活動（山登りの記録）

初めに

昭和 39 年（1964 年）卒業の重田、79 歳です。土木コンサルタントの日本工営（株）を退いた現在は、土木設計会社で技術管理業務に従事しております。



2019 年 7 月、自宅にて
(78 歳)

学生時代は、ワンダーフォーゲルに属していました。日本工営時代は、主に海外のコンサルタント業務に従事しました。その後は国内の設計会社の技術管理業務に従事していますが、私的な時間を多く持て、再び山登りに励み 78 歳の現在も登山活動を継続しています。本来、この紙面に登場するのは「現場で活躍されている緑土会会員の紹介」で現役諸氏のはずなのですが、依頼者のご希望により、私の現役時代の活動の一端と、第一線業務を離れた「その後の活動」を紹介させていただきます。

インドネシアの印象的な業務（巻末の添付資料：「プランタス河総合開発図」参照）

日本工営時代は、JICA（Japan International Cooperation Agency）、ADB（Asian development Bank）や世銀（World Bank）などの海外業務が主体で、1971 年～2008 年の間、いくつかの開発途上国を歩いた。特にインドネシア勤務は通算 20 数年となった。業務の多くは、ダム・発電・河川改修などの河川関連プロジェクトで、計画・調査・設計、施工管理に携わった。JICA や ADB の業務は、プロジェクトの具現化により「地域住民の生活向上」を目指し、プロジェクトを遂行する中で「人的資源の開発・育成」に寄与することであった。

1965年、JICA（旧称 OECF）の円借款資金の基に、インドネシア・東ジャワ州に、ジャワ島第二の河川「ブランタス河総合開発プロジェクト」が始まった。流域面積 11,800k m²、流路延長 320 km の、1) 火山噴火に伴う源流帯の砂防事業、2) 都市、かんがい、工業用水、の水資源開発、3) 水力発電開発、4) 洪水防御、5) 農業施設の整備、等の総合開発であった。援助総額は現在価値で 1 兆円に達した。「一河川、一計画、一括管理」を目指すインドネシア政府の理念のもと、1965年～1999年の間、日本工営一社がコンサルティング業務を担った。8 多目的ダム、4 可動堰、河川改修、3 地区の農業開発、道路整備、などの建設を実施した。一民間コンサルタントが、河川の総合開発を手掛けることは稀有なことであった。当プロジェクトは、流域の社会・経済を下表のように大きく変化させた。

プロジェクトの進展に伴う碑益地域の社会・経済諸元の変遷

	1965	1970	1975	1980	1985
人口 (×10 ⁶)	10.3 (105.1)	11.3 (119.5)	13.8 (135.7)	14.0 (147.5)	14.5 (164.6)
GDP (×10 ⁹ Rp)	-	435.7	1,244.8	4,181.5	9,427.4
米の生産量 (t)	-	1,428	1,970	2,290	2,535
工業生産額 (×10 ⁹ Rp)	-	105.2	262.5	1004.5	1903.1
電力 (10 ³ kW)	81 (331)	81 (526)	184 (1,159)	338 (2,505)	643 (5,635)

注 () 内の数値は全インドネシア

日本工営と日本のゼネコンの支援の基に、政府の直営で工事は進められた。プロジェクト初期の 1965 年の政府の技術要員は 1,600 人であったが、10 年後の 1975 年には 7,300 人となった。5,700 人が当プロジェクトによって養成された。1975 年当時、全インドネシアの全技術要員は 30,000 人程度と推定され、このうち当プロジェクトで育成した技術要員が 6,000 人と 2 割を占め、当プロジェクトは膨大な技術要員を育成したといえる。

1984 年のロドヨダムの完成式で（上流域で 4 番目に完成した多目的ダム）、当時のインドネシア政府の公共事業大臣は、「ブランタス河は、合理的な計画に基づき、総合的かつ包括的に実施された我が国最初の河川である」「ブランタス河総合開発は、究極的にインドネシア人専門家、熟練技術者を多数育成した」と当プロジェクトの成果を評価した。

1997 年、私は会社の業務の一環として「ブランタス河の開発・技術と人々の交流」を本に纏め出版した。この作業を通し、当プロジェクト前段のブランタス河支川の湿地帯のネヤマ排水トンネルの設計・施工（付記-1 参照）の苦闘の時代や、インドネシア政府のブランタス河総合開発にかける熱意など、当流域開発の全体像を詳細に知り得、1970 年代を当プロジェクトで過ごした私は、技術者として幸せなことであったと改めて実感した。



河道改修のための移動床水理模型実験中の筆者（ブランタス事務所）



付記-1：ブランタス河支川グロオ川中央部の沼沢地 3,000ha は、雨季には 28,000ha に拡大する。状況を改良するため、グロオ川南方の丘陵部にトンネルを掘り、直接インド洋側に排水する干拓計画が進められ、ネヤマ排水トンネルプロジェクトと命名された。1958年、日・イ経済協力第1号（戦時賠償）として1959年に着工し1961年に完成した。

ネヤマプロジェクトは長い歴史を持ち、話は第二次世界大戦中の日本軍の占領時代に遡る。当時日本軍により素掘りトンネル工事が進められ完成した。その後、維持管理不足でトンネルは崩落し埋没した。当時は僅かにズリ出しトンネルが残っているのみであった。

1956年、イ政府により開水路案で排水工事が始まった。開削土量が膨大で人力主体の工事では、竣工に10数年と見られ政府は対策に苦慮していた。イ政府から相談を受けた日本工営は直ぐ調査し、トンネル案が妥当であるとイ政府に進言。日本の戦時賠償で、工事は1960年着工し1961年に完成した。その効果は大きく、28,000haの洪水氾濫地域は縮小し、翌年の農作物収量は200万ドルに達した。工事費200万ドルを1年で償還したことになる。また当地はマラリヤ多発地帯であったが、完成後はマラリヤもほとんど無くなった。

ネヤマ排水プロジェクトの成功により、日本工営はイ政府から高い技術評価と、人間としての厚い信頼を得、その後のブランタス総合開発計画にメインコンサルタントとして、活躍の場を得たといえる。

その後の活動

インドネシア・東ジャワ州マラン市に駐在中（特に1998年以降）は、街のクライミング・クラブと交流があり、山登りや岩登りに一緒に出掛けた。鬱蒼と繁茂する原生林の中を登って行くと、様々な花が咲き乱れる大平原や大湿原、静かに清水を湛える湖が現れ、山頂には広大な噴火口が待っていて、遥か遠く海まで見渡せる素晴らしい景色が広がっている。活発に噴煙を噴き上げる活火山も多い。島々への旅行も楽しみの一つで、アミニズムに彩られた伝統文化の素晴らしさや、自然に寄り添う素朴な人々の生活を目にした。

2008年、インドネシアの海外業務から帰国し、68歳となり日本工営の業務から離れた。その後は、私的な時間を持つことができ、学生時代に打ち込んでいた山登りを再開した。憧れのヨーロッパアルプスで、モンブラン山やアイガー山、等のピークハントやシャモニー周辺の岩壁登攀など、岩と雪を楽しんだ。洗練・整備された岩と雪のヨーロッパアルプス生活を堪能すると、逆に深い樹林に覆われた原始の姿のままのインドネシアの山々と、人々の素朴な生活が懐かしく思いだされた。再び、インドネシアの山に登ろうとする気持ちが強くなり、島々に点在する標高3000m以上の全山踏破の再開を思った。

目標は：(1) インドネシア（ニューギニアを除く）は、最高峰のスマトラ島のクリンチ山（3805m）をはじめ、島々に標高3000mを超える高山が22座点在し、これら全山を登る（日本工営の業務を離れた2008年までに、既に12座登っていた）。(2) ニューギニア島には、標高4,000m以上の峰々を持つ3つの山域（標高4000m以上の峰々は29座）があり、各山域の最高峰の3座に登る。(3) 主要な岩場の紹介、と心に決めた。2008年以降、度々インドネシアを訪れ、山と旅を楽しんだ。2015年にほぼ目的を達し、2016年「インドネシアの山旅の記」（山と溪谷社）として一冊の本に纏めた。しかし、完全に目標を達した訳でなく、幾つかの未踏の山が残り、その後もインドネシアの山登りを継続している。

スマトラ島北部のルセール山 (3445 m) ・トラとの遭遇

スマトラ島が原生林に覆われていた時代、全域にトラ、サイ、クマ、ゾウ、などの大型動物が生息していた。現在トラ（絶滅危惧種に指定されている）は、北部のアチェ州の自然保護地区のみに生息している。ルセール山は、当地区の中央部にあり、山頂へは通常 8 日の間トラの生息地区を行き（近道はない）、そして同じ道に戻る。

2016 年 7 月、私とインドネシアの友人と 2 人で、ジャカルタ市からスマトラ北部のメダン市の空港に降り立った。メダン市は、アサハン河水力開発時（付記参照）に度々訪れた。街を素通りし途中一泊し翌日の昼過ぎ、登山口（プランケジュレン市の端）のクダ村に着いた。翌朝、我々とガイドとポーター4人の計7人でクダ村を出発した。

付記：メダン市の 160 km南に巨大なカルデラ湖・トバ湖がある。トバ湖の豊富な水量と、アサハン河の落差 900mを利用し、3 ダム（1 アーチダムと 2 重力ダム）と 1 半地下と 1 地下の 2 発電所（計 100 万 kW）が建設された。電力は、東海岸に新たに建設された日本・インドネシア合弁会社のアルミニウム精錬工場に送電されている。



雨が断続する中、原生林の前衛の山アングサン山頂（2891m）を越え、そして出発して三日目夕方、大草原パダン・ルンブットを過ぎ、標高 2300mのアラス河源流の清流を渡る。更に泊りを重ね、6 日目に大草原と湿原のラパガン・ボラ（猪の足跡多し）を過ぎれば、ルセール山頂は近い。降っていた雨も上がり陽がさしてきた。岩と草原のなかに「ウツボカズラ」が群生する緩やかな道をたどり、ハイマツの山頂に達した。山頂の西側に、遠くインド洋が見渡せる。真っ赤に染まった日の入りの景色は、素晴らしく雄大で荘厳であった。

翌朝下山を開始する。猪の足跡が多く残るラパガン・ボラで、新しいトラの足跡を発見。トラが向かっている方向は我々と同じ。夕方 5 時に尾根脇にテントを張った。夜中の 1 時過ぎ、テントの外からの動物の唸り声で目がさめた。トラがテント周囲を徘徊しているのだ。隣の友人も目覚めて息を殺している。私もなす術もなくじっと動かずにいた。幸いにもトラの鼻息が次第に遠ざかり、静かになった。隣のテントにいたガイドも、トラが来たことは承知しており、起きて盛大なトラ除けの焚火をしていた。テントの周りには生々しいトラの足跡だらけであった。そして登山道にも多くの新しいトラの足跡があり、どうやら我々とトラの進行方向が同じのようである。その夜、昨夜と同じ時刻、動物が何者かに

追われているのか、すごいスピードで、テントにぶつかりながら脇をすり抜けていった。翌日足跡から猪とわかる。猪を追いかける動物はトラ以外にはいないだろう。トラに追われるように自然と我々の足も速くなり、無事に10日目に登山口に戻った。

ルセール山を登った時、私は75歳であった。ルセール山に登頂した登山者達の最高齢であったようだ。健康であることを感謝しつつ、その後もインドネシアの残りの山を登るべく、毎年インドネシアに通っている。



日本工営・、緑土会員による、重田の
ブランタス総合開発プロジェクトへ赴
任送別会（1971）

後列：左3人目より、篠田（S40卒）、
中部（S37卒）、為光（S43卒）、
前列：左より、藤沢（S25卒、故人）、
重田（S39卒）と家族、鈴木（S42
卒）



2013年、73歳当時の私
ニューギニアのワメナ郊
外に住むラニ族の族長の
ワラ葺きの家にて



麓の定点観察地点で自
動撮影されたトラ（ピ
ンボケ）、体長3.5m



山頂の夕日



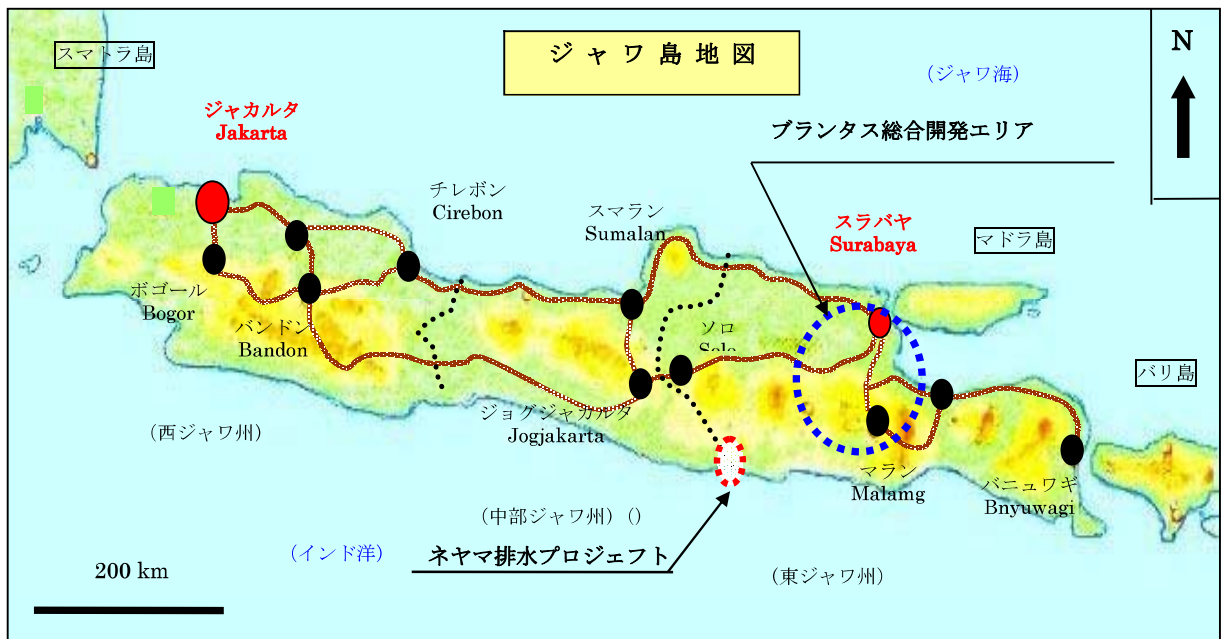
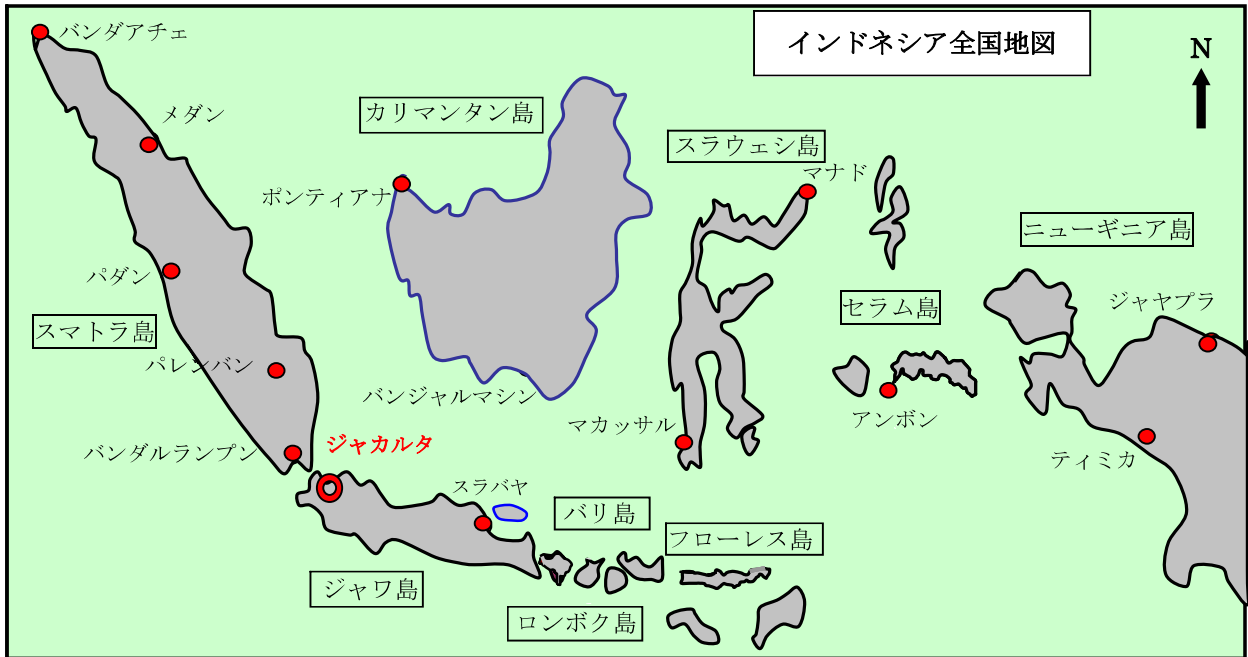
トラの足

日本工営在籍の武蔵工業大学の卒業生

東京都市大学卒業し、2019年7月現在日本工営に在社している社員は、総数47名（土木、電気、等）で、そのうち緑土会員（土木）は17名である。

添付資料：

- 1) インドネシア全国地図
- 2) インドネシア・ジャワ島の概略地図
- 3) ブランタス河総合開発図





1. 重田のプロフィール



左より：重田（52 歳）と 1970 年代のブランタ
ス・プロジェクトの重鎮達、2002 年ブランタ
ス事務所にて懇親会



重田（77 歳）：2019 年正月、自宅にて

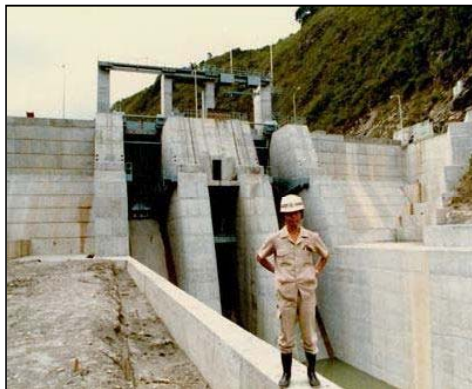


左より：佐藤（1970 年代の日本工営ブランタ
ス統括所長）、カランかテスダム初代所長、重田（50
歳）、2000 年マラン市内にて

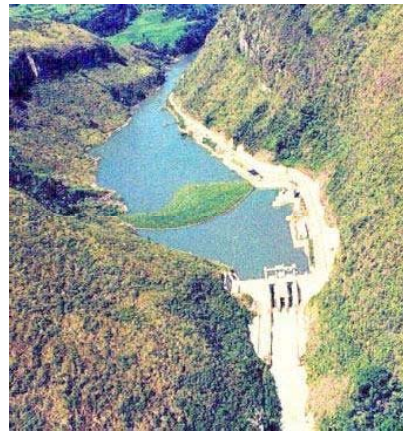


重田の現在（78 歳）：2019 年 7 月、自宅にて

2. アサハン河水力発電



アサハン河最上流のレギュレーティングダム
(H=30m、トバ湖の水位を調節する)



レギュレーティングダム全景、
1980年完成



上流から二番目のシグラグラダム H=48.5m



シグラグラ地下発電所 (P=60.3MW) の地上の
変電所、1981年完成



上流から三番目のタンガダム H=83m、



タンガ発電所 (P=22.3MW) の地上の変電所、
1982年完成

3. ブランタス河総合開発



カラんかテスダム (H=100m)
の取水口と余水吐



カラんかテス発電所とイ国の特産品「竹」を模したサージタンクとペンストック、1973年完成、目的：灌漑、発電、洪水調節、都市用水



ウリングダムの取水ゲート



カリコントダム、H=49mはオランダ時代に建設された調整池を持った2万9千kWの発電用水に利用された、1972年完成、目的：灌漑、発電、洪水調節、写真はダムの取水ゲート



ロドヨ調節堰（ウリングダムのアフターベイ）、
ローラーゲート幅 12.0m x 高 11.3m x 門数 8、
1983 年完成、目的：流量調節、ピーク発電 4,500
kW



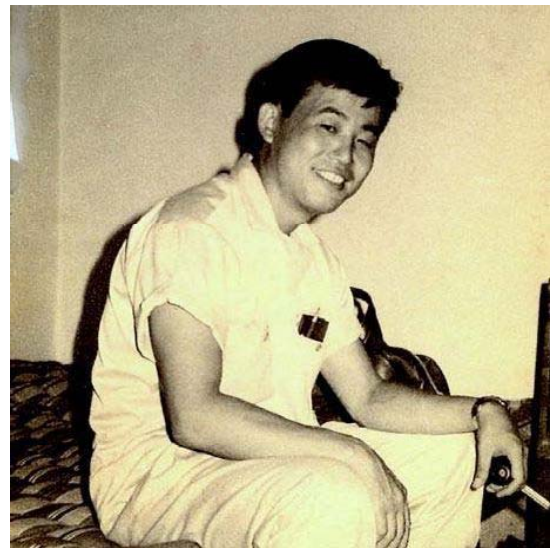
トゥルンガゲン発電所（インド洋海岸）、ネヤマ
排水利用 $P=36,000$ kW、1991 年完成



レンコンダム、ローラーゲート幅 11.1m x 高
4.8m x 門数 8、目的：スラバヤ川とポロン川へ
の洪水流量調整、灌漑用水・都市用水の分流



ポロン川改修工事、護岸工事と水制工事



重田 1972 年（32 歳）、ブランタス宿
舎にて

4. ルセール山の写真



1) 一日目、ジャカルタからメダン市の新空港へ行く、市の中心地区と空港を結ぶ鉄道がある



2) 空港を通過し途中一泊し、二日目に登山口となるプランケジュレン街につく



3) プランケジュレン市から一時間ほどで登山口のクダ村に着く。ここで泊まる、翌朝発



4) 登山口から途中一泊し登山口から二日目の昼にアンガサン山頂に着く、



5) 途中一泊し、三日目アラス川源流に着く、ここで泊



6) アラス川先の小ピークからルセール山を望む



9) 六日目の昼過ぎ山頂に到着、友人のM氏とガイドとポーター達



7) 六日目ラバガンボラから小一時間露岩のある草原、山頂まで小一時間



10) 山頂から西側の山々、翌日下山し10日目に登山口に着いた



8) 山頂直下から山頂方向を望む



11) メダン市内の中心地にある、華麗なモスク
(イスラム教会)



12) 上記のモスク近くにある旧王宮（現在は博
物館）



13) メダン市内のスマトラ島独特の船形屋根を
持つ高級ホテル、空港と市内を結ぶ終着駅より

五洋建設株式会社 職場支部「五洋柏会」だより

五洋柏会

谷口 修 (98 土木工学専攻)

五洋建設(株)の職場支部である「五洋柏会」は、校友会の支部となる以前から武蔵工業大学と東京都市大学の卒業生が集まり懇親を深めていましたが、2013年1月に校友会の職場支部として設立しています。

五洋柏会は、松尾支部長(1982年卒)を中心として活動しており、会員数は32名となり、20代から60代まで幅広い年代で構成され、国内各地はもとよりシンガポールや香港など海外でも活躍されています。特に2011年以降入社の手が揃っている状況にあります(表-1)。五洋柏会支部全体では、建築職8人、機電職2名、担当職1名の計43名となっています。

緑土会員は、会員全員が集まることは難しいため、関東地区在住の有志が集まり交流を図るとともに松尾支部長が地方や海外出張した際には会員に対して校友会活動の説明などを行っていただいております。

表-1 東京都市大学(旧武蔵工業大学)緑土会 会員名簿

	氏名	卒業年月	学科	所属
1	松尾 史朗	198203	土木工	本社安全品質環境本部
2	増原 稔之	198203	土木工	四国支店
3	和栗 成樹	198803	土木工	本社土木部門土木2020事業部
4	平井 丈彦	199003	土木工	シンガポール営業所工事々務所
5	加藤 豊	199203	土木工	大阪支店土木工事々務所
6	村内 英司	199303	土木工	香港営業所工事々務所
7	溝端 克臣	199403	土木工	東京土木支店土木工事々務所
8	山本 純	199503	土木工	東京土木支店土木工事々務所
9	新井 真樹	199503	土木工	東京土木支店土木工事々務所
10	須藤 雅典	199603	土木工学専攻	中国支店土木工事々務所
11	土田 淳也	199703	土木工	本社土木部門土木営業本部土木プロジェクト外部
12	谷口 修	199803	土木工学専攻	技術研究所土木技術開発部
13	山口 英樹	199803	土木工学専攻	技術研究所土木技術開発部
14	笠原 正博	199903	土木工学専攻	中国支店土木工事々務所
15	増田 裕之	200203	土木工	東京土木支店土木工事々務所
16	二村 健太	201103	都市基盤工学専攻	東京土木支店土木工事々務所
17	中内 健介	201103	都市工	東京土木支店土木工事々務所
18	榎本 隆	201203	都市工	名古屋支店土木工事々務所
19	内田 英作	201303	都市工	東京土木支店土木工事々務所
20	江守 辰哉	201403	都市工	技術研究所土木技術開発部
21	上野 太陽	201503	都市工	東京土木支店土木工事々務所
22	三上 誉人	201603	都市工	東京土木支店土木工事々務所
23	渡邊 和貴	201703	都市工学専攻	名古屋支店土木工事々務所
24	青木 悠一郎	201703	都市工	東北支店土木工事々務所
25	浅尾 晋太郎	201803	都市工	中国支店土木工事々務所
26	小林 智哉	201803	都市工	東北支店土木工事々務所
27	鈴木 悠斗	201803	都市工	九州支店土木工事々務所
28	新井 晨平	201903	都市工	名古屋支店土木工事々務所
29	岡田 弘毅	201903	都市工	北陸支店土木工事々務所
30	甲賀 覚	201903	都市工	四国支店土木工事々務所
31	堀田 進乃介	201903	都市工	中国支店土木工事々務所
32	森 亮介	201903	都市工	九州支店土木工事々務所

会社をご退職されたOBを交えた懇親会も開催しており、その際には地方や海外在住会員からの紙面による近況報告も行っています。写真－1にOBを交えた懇親会の写真を示します。

学校への協力として海外インターンシップへの協力や日本埋立浚渫協会の「うみの現場見学会」への都市大の学生参加へのサポートなどを行っております。

最後になりましたが、2020年4月から「建築都市デザイン学部」として新設・されるようですので学校の“新加”に向けてサポートできるよう、今後も校友会、緑土会の活動に参加していきますので皆様どうぞよろしくお願いいたします。



写真－1 H29年度のOBを交えた懇親会



S 48中村進 S 61北岡 S 56大和田 S 53薄井 S 59岡田
 S 60高尾 S 53岡村 S 51原田 S 55雑賀 S 61小野寺
 54年菅澤 S 45安田 S 57高橋 S 41船越 S 58萩原 S 57藤崎 H7高柳
 S 51村田 S 41年五艘 S 36年小松 S 51年松浦 皆川副学長 S 48年海保 S 58滝浪 S 44年宮寄 32年中村

第62回

東京都市大学校友会千葉支部会員総会



令和 元年 7月 6日 (土)

於：スカイウィンドウズ 東天紅

第62回 東京都市大学校友会千葉支部会員総会

式次第

司会 高柳 幹事

総会

1. 支部長挨拶 海保 支部長
2. 議長選出
3. 議事
 - 1) 1号議案 30年度活動報告及び会計報告 山下 会計
 - 2) 2号議案 31年度 活動計画(案) 山下 会計
 - 3) 報告事項 31年度千葉支部役員 山下 会計
4. 来賓の紹介
東京都市大学副学長 皆川 勝 様
東京都市大学校友会 常任幹事 松浦 弦三郎 様
東京都市大学校友会 幹事 田崎 博美 様
5. 閉会のことば 司会 高柳幹事

懇親会

1. 来賓挨拶
東京都市大学学長代理 東京都市大学副学長 皆川 勝 様
校友会 会長 代理 校友会常任幹事 松浦 弦三郎 様
 2. 乾杯 S32卒 三浦 弘様
 3. 初めての出席者のご紹介 司会 高柳幹事
 4. ビンゴゲーム 滝波・北岡副支部長
 5. 校歌斉唱 山下・中町幹事
 6. 中締め 中村顧問
- ※ 集合写真は総会前に会場で撮影いたします。
※ 2次会の会場は午後5時30分より22F甘太郎を予約してございますので、お時間の許される方は是非ご出席ください。(会費2000円)

第1号議案

平成30年度活動報告

平成30年7月7日 校友会千葉支部総会

出席者数 会員 33名
来賓 2名
計 35名

平成31年2月20日 役員会 総会の反省、次期総会開催日、役員人事他打合せ

平成31年4月16日 役員会 総会の案内状、アンケート内容他打合せ

令和元年6月19日 役員会 総会準備(役割分担、レジメ、アンケート結果)

平成30年度 校友会千葉支部 収支決算書

自 平成30年7月1日

至 令和元年6月30日

年月日	科目	収入の部	支出の部
	繰越金	554,314	
平成30年7月7日	総会費	190,000	262,049
平成30年7月7日	2次会費	24,000	44,824
平成30年8月20日	利息	2	
平成31年2月21日	利息	2	
平成31年2月21日	役員会		28,000
平成31年4月17日	役員会		21,000
令和元年5月7日	地方支部支援金(本部より)	96,000	
令和元年6月19日	役員会		24,500
	次年度繰越金		483,945
合計		864,318	864,318

上記の通り決算報告いたします。

令和元年6月30日

千葉支部会計 山下 和弥

会計監査報告

平成30年度 東京都市大学校友会千葉支部会計について、預金通帳ならびに関係
諸帳簿類を監査した結果、その処理は適正に行われていたことを確認いたしました。

令和元年6月30日

監事 藤崎 宏行



小林 叙平



第 2 号議案

平成 3 1 年度活動計画

7 月 6 日 総会及び懇親会

1 1 月 3 日 ホームカミングデーの連絡・参加
(世田谷キャンパス、多摩夢キャンパス見学会または講演会)

1 1 月～6 月 役員会

報告事項

校友会千葉支部メールアドレス

Koyukai_chibashibu@yahoo.co.jp

平成 3 1 年度千葉支部役員

支部長	海保 芳久	S 4 9 土木
副支部長	安藤 孝房 (ク)	S 4 8 土木
	滝浪 善裕	S 5 5 土木
	五木田 美紀子	S 5 0 国語
	北岡 聡	S 6 0 土木
顧問	中村 春雄	S 3 3 建築
	宮寄 義昭	S 4 4 土木
会計	山下 和弥	S 6 0 機械
幹事長	村田 慎吾	S 5 1 土木
副幹事長	菅澤 浩之	S 5 4 土木
幹事	河口 修	S 4 6 通信
	高柳 昌司	H 2 土木
	中町 源徳 (ク)	H 7 土木
	早川 玲子 (ク)	H 7 英語
監事	藤崎 宏行	S 5 6 土木
	小林 叙平	S 5 2 経営

校友会行事予定

ホームカミングデー 1 1 月 3 日

アンケート結果

	7月第一土曜及び休日	平日	どちらでもよい
葉書による回答	出席者	10名	11名
	欠席者	3名	11名
メールによる回答	出席者	6名	5名
	欠席者	5名	5名
合計	22名	12名	32名

ご意見の抜粋

- 開催日 土日を選んだ方たち**
- ・平日は仕事があるから、休日が良い
 - ・開催日が決まっていたほうが、予定が立てやすい。
 - ・勤務があるため普通の日での出席は難しい。
 - ・現在の日取りは現役の時からであり、忘れない。
 - ・元日に手帳に書き入れ校友会を優先できる。
- 平日を選んだ方たち**
- ・仕事帰りによれる。
 - ・休日は家庭サービスに使える。
 - ・現世代の武業会会員は平日夜間の方が出席しやすい環境にある。
- その他支部に対するご意見**
- ・現役学生の父兄が参加できるような企画を検討する。
 - ・大学の施設を見学するツアーをお願いしたい。
 - ・ただ酒を飲むよりスポーツ（ゴルフ、ハイキング）が良い。
 - ・ボーリング大会：老若男女が楽しめて、その後懇親会盛り上がりそう

東京都市大学校歌

相馬御風 作詞 山田耕筰 作曲

1. 世界に輝く^あ東京の
踏籠^{ふかご}塵なきあしたの空に
われらが目指すは創造^い一路
文化と自然の綾なすほとり
自治こそひらめけ吾が三色旗
薫^かたる学徒の雄姿をみよや。
2. 静かに更けゆく^あ夜^よ天^{てん}の下^{した}に
われらが胸には燃え立つ抱負
邁進^{まいしん}やまざる吾等が肩に
自ら省み世の態^あおもふ
公正自由の精神^{せいしん}を生命^{せいめい}
使命は大なり行手^{ゆきで}は遥か。
3. 仰げば^あ巢^す空^{そら}襲^お葉^はに
日に日に榮^{さか}行くわれらが母校
いざいざわが友意気高らかに
薫^かたる希望の日ぞ今昇る
日に日にさやけきわれらが理想
前人未拓の道開かばや。

東横学園女子短期大学歌

石上堅 作詞 高田三郎 作曲

1. 夢もあかるく ひろく学び ゆかりの^{はなざり}花^{はな}桐^{とう} うらうらと
日本の^{ちしお}血^ち汐^{しお} 若^{わか}胸^{むね}にたぎり 幸^{さいち}ある歴史^{れきし}を きずく^{おとめ}処^と女^め
励^{はげ}み誇^{ほこ}りて とともに見よ 青き空に伸びゆく大学 東横学園 東横学園
2. ^{こころ}心^{こころ}すがしく ふかく想^{おも}い せせらぐ玉川 さらさらに
世界の^{ちせい}知^ち性^{せい} 高^{たか}胸^{むね}にあふれ 幸^{さいち}ある平和^{へい}を いのる^{おとめ}処^と女^め
磨^{みが}き正^{ただ}して とともに見よ 天^{あま}つ空^{そら}にそそれる大学 東横学園 東横学園
3. ^{ひとみ}瞳^{ひとみ}すずしく 愛^{あい}にうるみ 頬^ほよせ若^{わか}草^{くさ} ほのぼのと
明日^{あす}への^{ぎげい}技^ぎ芸^{げい} 広^{ひろ}胸^{むね}にもえて 幸^{さいち}ある世代^{せだい}に みのる^{おとめ}処^と女^め
鍛^{きた}えゆかしく とともに見よ 国^{くに}つ空^{そら}に永^と久^りなる大学 東横学園 東横学園

武蔵工業大学校歌

校歌制定委員会 編詞 梶山三郎 作曲

1. 芙蓉の高嶺仰ぎみて 多摩の流れの水清き
世紀の園に咲き出づる 武蔵工大その名こそ
智の泉なり光なれ
2. 科学の真理極めんと 技を練り術を磨きつつ
共にいそしむ^あ蛍^{へい}雪^{せつ}の 武蔵工大その名こそ
自治と自由の象徴なれ
3. 功績の精華は回りきて 白亜は蒼く苔むせど
星霜永久に限りなき 武蔵工大その名こそ
我が青春の故郷なれ

緑土会OB 訪問・懇親

- 1、「五洋建設株式会社」 本社訪問日 6月4日
- 2、「大成建設株式会社横浜支店」「トップライズ株式会社関東支社」
懇親会 7月4日
- 3、「世紀東急工業株式会社」 本社訪問日 7月8日
- 4、「青木あすなろ建設株式会社」 本社訪問日 7月8日
- 5、「トップライズ株式会社」 関東支社訪問日 7月19日

1、「五洋建設株式会社」 6月4日 訪問



左より 松尾さん（昭和57年卒業）、船越さん（昭和41年卒業）

2、「大成建設株式会社横浜支店」「トップライズ株式会社関東支社」7月4日 懇親会
仮称 東横線沿線会（最寄駅 東白楽・日吉・綱島・武蔵小杉駅）



左から土橋（昭和62年）、小林（昭和47年）、太田（昭和56年）、三木（昭和61年）
土橋さんと三木さんは大成建設横浜支店、太田さんはトップライズ関東支社



左から 土橋功さん（昭和62年卒業）、三木洋人さん（昭和61年卒業）

3、「世紀東急工業株式会社」 7月8日 訪問

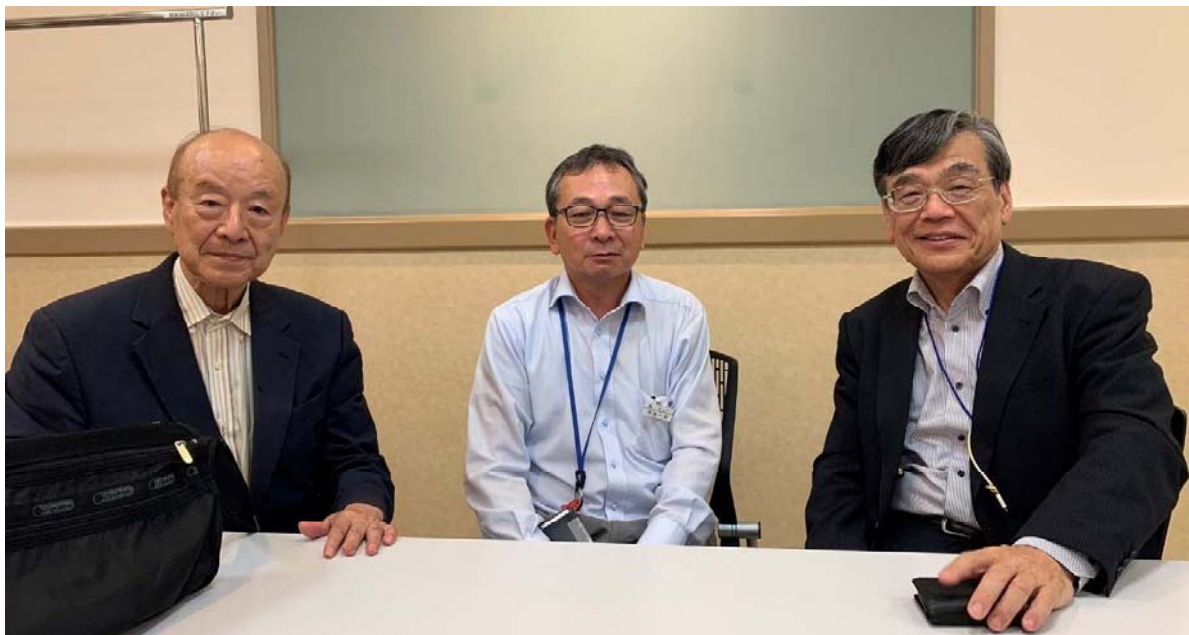


左より 小林（昭和47年卒業）、平本さん（昭和53年卒業）、船越さん（昭和41年卒業）



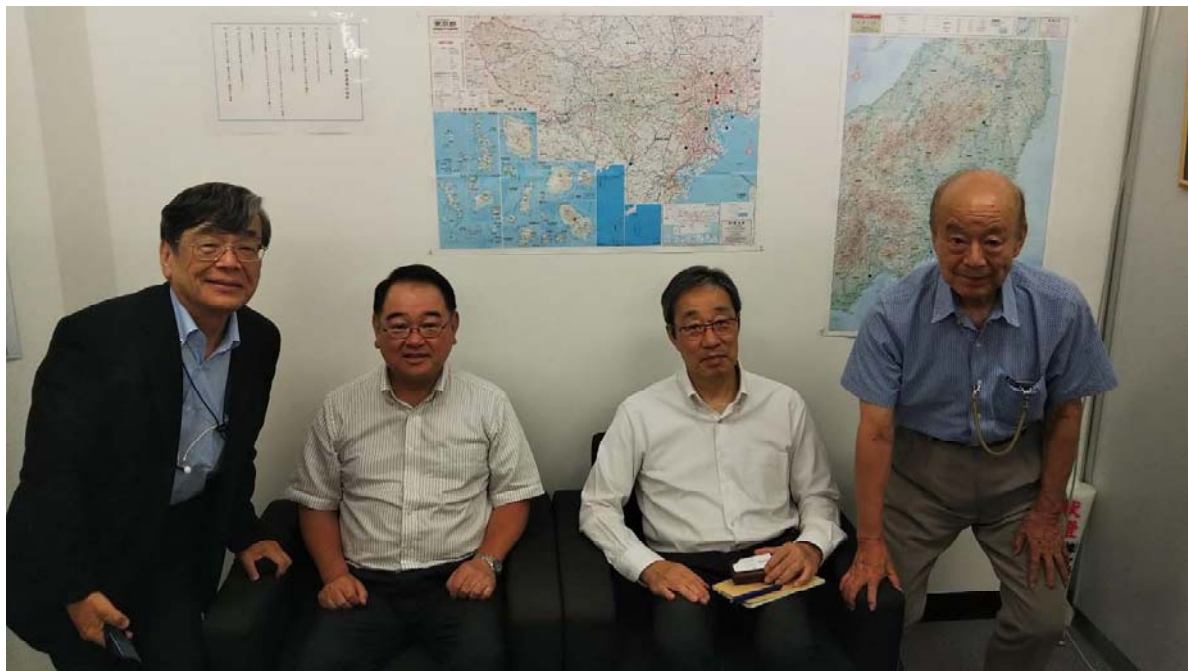
左から 2番目の世紀東急工業 鈴木常勤監査役を囲んで

4、「青木あすなろ株式会社」 7月8日 訪問



左より 船越さん(昭和41年卒業)、市毛さん(昭和58年卒業)、小林さん(昭和47年卒業)

5、「トップライズ株式会社」 7月19日 訪問



左より 小林(昭和47年卒業)、太田さん(昭和56年卒業)、
浅野さん(52年卒業)、船越さん(昭和41年卒業)